

重点4 社会参加の充実

■ 武蔵野市第六期長期計画では、市の目指すべき姿として「誰もが安心して暮らし続けられる魅力と活力があふれるまち」を掲げています。障害者が自分らしく安心して暮らしていくためには、様々な形での社会参加の促進を図ることが大切です。多くの障害者が社会参加を果たすことで、地域の障害に関する理解がより一層深まり、支え合いのまちづくりが推進されます。

■ 障害者の就労支援については、障害者就労支援センターあいるを中心に、関係機関が連携を図りながら様々な取り組みを進めており、就労移行支援事業所の数も着実に増え続けています。

一方、実態調査の結果から、精神障害者の就労意向は他の障害者に比べ高いものの、実際の就労につながらないケースが多い状況にあります。

精神障害や発達障害のある方が、短時間就労など多様な働き方を選択できる取組みを推進します。また、市役所庁内での職場実習を引き続き実施するとともに、市内事業所の実習先の確保に向けた取組みを推進します。

■ 引きこもりの方や家族への支援策として、これまで、相談会や家族セミナー、フォーラムなどの事業（引きこもりサポート事業）を実施してきましたが、今後は、対象年齢の拡大に伴い、若者サポート事業や不登校対策等関係事業などとも連携を図りながら、アウトリーチ型の支援や年代別のニーズに応じた居場所機能の充実を図ることが必要です。

■ 今後は、引きこもりの方の高年齢化や世帯状況の多様化、複雑化など、障害福祉の枠を超えた分野横断的な課題に対応するため、庁内体制整備について検討を行います。

■ 実態調査結果から、通所後や週末の居場所づくり、余暇活動支援に関するニーズの高さが確認できました。

社会福祉法人武蔵野が試行実施したイブニングサービスにおいて、費用や場所、利用対象者、実施事業者、プログラムの内容など、様々な課題を検証したうえで、他サービスへの振替えも含めて検討します。

■ 令和2（2020）年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、1年間延期となりました。

新しい生活様式を取り入れながら、障害のある人がスポーツを楽しむ機会や利用しやすい活動の充実を図るための取組みを検討します。